

## 私の政治信条

氏 名 種田 昌克

「100年後の日本は人口が半分になる」

この国土交通省が2月に出した推計に、もしかしたら自分のふるさとが消えてなくなるかもという不安を持った人は多かったのではないだろうか。実は私自身も不安を抱いた一人である。単に人口減少のみではなく、これから起こりうる複合型東海地震などを考えるとき、どうしたら、ふるさとを、日本を子や孫に残していけるのだろうかと自問自答する毎日である。

私のふるさと水の都・大垣は、松尾芭蕉の奥の細道結びの地として有名で、関ヶ原合戦での西軍石田三成が最初に本陣を構えた地でもある。三成が「大一大万大吉」の旗印を用いたことは良く知られている。大とは天下を表し、天下のもとで一人が万民のために、万民が一人のために、という世の中になれば、すべての人が吉（幸福）となり、太平の世が訪れるというのが旗印の意味である。意味としては、アレクサンドル・デュマ著「三銃士」の“All for one and one for all”という言葉に近く、ラグビーでも良く使われる。

また、芭蕉がいう「不易流行」とは、いつまでも変化しない本質的なものにも、新しい変化を取り入れて行くことである。つまり、変わらないことが変わることであり、変わることが変わらないことである。たった17文字という限られた表現のなかで常に新しさを追求しなければ陳腐化してしまう俳句が、今まで生き残っているのは不易流行によるものであり、私は日本も地域も政治も同じだと考えている。水が流れないとそのうち腐るように、その活力を失わないためには、新しい考え方やヒトやモノの出入りが必要だと思う。

私は地域にゆかりのあるこれら先人が残した言葉を胸に、何を残して、何を新しいものに変えれば、新しいふるさと大垣を創造できるのか考え、そして子孫にふるさとを残せるよう取り組んでいきたいと思う。そのために、一人の力がいつか万民のためになるよう、つまり“北京で1匹の蝶が羽ばたいたら、ニューヨークでハリケーンが起こると”いういわゆる“バタフライ効果”のように、大きな風となれるよう、地域づくり、ひとづくりに取り組んで生きたいと考えている。